

令和4年度

特定非営利活動法人日本レスキュー協会事業報告

(期間：令和4年9月1日から令和5年8月31日)

■日本レスキュー協会全体の動き P：2

- ・組織
- ・組織の動き

■事業の成果

【災害救助犬事業】 P：3～5

- ・災害対応
- ・災害救助犬の標準化に向けた事業
- ・育成
- ・活動資金
- ・その他

【セラピードッグ事業】 P：6～7

- ・被災地慰問
- ・福岡県ワンヘルスの取り組み
- ・セラピードッグ派遣事業とその他プログラム
- ・活動資金
- ・その他

【動物福祉事業】 P：8～10

- ・犬の保護、引き取りと管理に関する事業
- ・保護した犬猫及び行政機関収容犬猫の譲渡に関する事業
- ・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業
- ・災害への対応
- ・ペット防災に関する活動
- ・犬のしつけ方教室の開催
- ・保護犬から災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業
- ・活動資金

【佐賀県支部】 P：11～14

- ・活動資金調達について
- ・災害救助犬事業
- ・セラピードッグ事業
- ・動物福祉事業関連
- ・大町町地域おこし協力隊
- ・大町拠点「MORE WAN」に関して

■日本レスキュー協会全体の動き

・組織

理事長 : 伊藤 裕成
副理事長 : 多田 修
理事(相談役) : 吉永 和正
理事 : 河合 伸朗
理事 : 北畑 英樹
理事 : 岡 武
理事 : 安随 尚之
理事 : 高木 美佑希
理事 : 赤木 亜規子
理事 : 辻本 郁美
理事 : 松崎 直人
理事 : 伊藤 美貴
監事 : 鵜飼 卓

職員数 : 14名

(事務局) 多田 修 (事務局長)

(事務局) 松崎 直人 (事務局長補佐)

(事業部)

高木 美佑希 (災害救助犬事業責任者)
高橋 玲衣 (災害救助犬事業スタッフ)
三枝 和佳 (災害救助犬事業スタッフ)
野田 尚貴 (災害救助犬事業スタッフ)
赤木 亜規子 (セラピードッグ事業責任者)
松崎 直人 (企画広報責任者)
南園 彩子 (企画広報スタッフ)
辻本 郁美 (動物福祉事業責任者)
赤窄 達也 (動物福祉事業スタッフ)

(佐賀県支部)

岡 武 (佐賀支部支部長)
織口 真己子 (佐賀県支部全般スタッフ)
平田 朱里 (佐賀県支部全般スタッフ)

(管理部)

伊藤 美貴 (経理総務責任者)
清水 秀和

・組織の動き

退職 : 7名 (事業部)

原田 亮・松林 良子・高須 正彦・野口 昌則・川崎 未来・藤井 朋子・清水 春花

■事業の成果

【災害救助犬事業】

令和4年度も継続して災害救助犬の育成・派遣を実施しました。

・災害対応

山形県鶴岡市西目地区土砂災害

2022年12月31日午前1時頃、山形県鶴岡市西目地区で幅約100メートル、高さ20～30メートルに及ぶ土砂崩れが起き、住宅を含む約10棟の建物が巻き込まれ2名が行方不明となった災害に関して、災害救助犬2頭、隊員3名を現地に派遣し2日間活動しました。

山形県との協定はなく県内での認知は殆どありませんでしたが、現地では救助犬を積極的に運用する方針であり、スムーズに要請を受け連携出来ました。また、北東北捜索犬チームと連携し、救助犬の頭数を確保できました。また今回の対応を受け、県内では平時から救助犬の理解を深め、有事に速やかな要請に繋げるために、協定締結に向けて調整中です。

奈良県十津川村山岳捜索

2023年4月19日、奈良県十津川村の行方不明者捜索に災害救助犬1頭と隊員を派遣しました。10日に行方が分からなくなり、行方不明者家族からの要望となりました。日数が経過していたこともありイレギュラーな対応でしたが、警察と連携し現場に入り計6日間活動しました。近年は、山岳捜索も重点的に訓練していることから、出動から捜索、他機関との連携までスムーズに取り組むことが出来ました。

今後は、日数が経過してからの要請ではなく、消防や警察の初動捜索のタイミングで要請を受けられるように、平時から協定を活かして顔のみえる関係性の構築に努めたいと思います。

佐賀県唐津市土砂災害

2023年7月10日午前6時15分頃、佐賀県唐津市浜玉町で土砂災害が発生し、2名が行方不明となった災害に関して、災害救助犬2頭、隊員3名を現地に派遣し4日間活動しました。

2018年に支部を発足後、少しずつ九州での活動の場を拡大し、今年は佐賀広域消防や佐賀県警との繋がりが構築されていました。また、九州の救助犬関係者と連携し、救助犬の頭数確保また迅速な現場入りを可能とすることが出来ました。平時のこうした繋がりがや取り組みが活き、現地の情報収集および運用、連携までスムーズに従事することが出来ました。今後も更なる発展に向けて、佐賀県内での活動を進めていきます。

・災害救助犬の標準化に向けた事業

2022年10月21日、岡山県下IRT（国際消防救助隊）合同訓練に参加しました。この訓練は、海外の災害に立ち向かう為、岡山市消防局と倉敷市消防局が連携して行われ、今年初めて救助犬の運用が導入されました。また、2023年3月14日～15日にかけて国際消防救助隊中国地区合同訓練に参加しました。

トルコ地震では、国際緊急消防援助隊と共に警視庁直轄の救助犬が派遣されています。訓練では、初めて救助犬と関わる救助隊の方々にとってはとまどいも大きかったと思いますが、積極的な意見交換に努め相互理解を図ることが出来ました。救助犬が救助活動の一つの手段となりうることを感じて頂けたと思います。兵庫県での活動がこのように少しずつ県外に波及し、岡山県内での救助犬の運用が進んでいくことが期待されます。

2022年11月8日、佐賀県消防学校職員専科教育救助科の授業の一環として、座学とデモンストレーション

ョンを行いました。また 2023 年 1 月 19 日から 20 日にかけて消防医療救助犬による 3 機関合同訓練に参加しました。訓練では、初めての連携と取り組みの中、積極的な検証が繰り返され、これから九州圏域での災害救助犬の活躍・発展が期待できる有意義な内容となりました。今後は、防災訓練や合同訓練に参加し、「顔のみえる関係」を構築し、非常時にスムーズに活動できるように連携体制を整えていきます。佐賀県の公的救助機関との縁が出来た、大きな 1 歩となりました。

2023 年 1 月 13 日、2 月 20 日、3 月 8 日、兵庫県西宮市消防局と山岳搜索訓練を行いました。訓練は、災害救助犬「太陽」と「クルー」（所属：救犬ジャパン）が参加しました。一つの想定現場では、100M 先からにおいを感知し辿り着き、別の現場では、山道から救助犬が反応し、約 30M 滑落した先で救助犬が吠えて発見に至るなど、実災害を想定した厳しい設定の中でしたが、素晴らしい連携によって、要救助者を迅速に発見することが出来ました。2019 年より本格化した山岳連携訓練は、一つ一つの訓練を通して、連携力も犬たちの練度も確実に高まりました。4 年間を通し、救助犬を理解し全面的にサポートして頂ける救助隊の皆様との訓練によって、山岳搜索時の救助犬の運用に関するモデル作りが大きく進んでいくと感じています。

2023 年 1 月 16 日、17 日、兵庫県広域防災センターにて川西市消防局と連携訓練を行いました。訓練では、搜索連携訓練だけでなく救助犬を高所へ輸送する訓練も実施しました。コロナにより 3 年ぶりの訓練となりましたが、訓練後には平時からのトレーニングにお声掛け頂くなど、顔のみえる関係性が構築できていると感じています。

2023 年 3 月 1 日、神戸市内の複数の消防が集結する神戸市消防局消防救助隊応用訓練に参加しました。これまでの訓練を通し、中央署特別高度救助隊とは顔のみえる関係性が構築されつつありますが、市内には 31 の消防署・出張所があります。中央署以外でも連携が出来るように、今回の訓練に救助犬を盛り込んで頂きました。初めて救助犬と関わる隊員も多く、不安や戸惑いがある中進められましたが、双方積極的にコミュニケーションを図り、取り組むことが出来ました。

2023 年 4 月 12 日、日本レスキュー協会佐賀県支部 MOREWAN 拠点にて、佐賀県警察白石警察署・機動隊と初の連携訓練を行いました。訓練では、災害救助犬「太陽」が行方不明者を発見し、迅速に警察の救助隊に引き継ぐことが出来ました。また訓練を通して地元公的救助機関との新しい繋がりを作ることが出来ました。

その他、協定を締結している地域の防災訓練に参加しました。

他機関との連携および訓練

2023 年 6 月 6 日～8 日、陸上自衛隊第 36 普通科連隊のレンジャー部隊の協力により、山岳救助での技術研修を行いました。訓練では、ロープの基本的な使用方法や地図の見方、急斜面を降下する際の技術を学び、現場での自己の安全確保の習得に努めました。

長野県八ヶ岳国際救助犬育成センターや佐賀支部拠点を使用して、他の救助犬団体と合同訓練を行い横の繋がり強化を図りました。

・育成

災害救助犬候補犬の導入

1 頭 (2022/11/10 生、ラブラドルレトリバー、雄)

・活動資金

企業支援 / 助成金 / その他

- ・東京センチュリー株式会社 (¥795,800)
- ・一般社団法人生命保険協会 (¥600,000)
- ・尼崎地域振興財団 (¥500,000)
- ・神戸マラソンフレンドシップバンク助成金 (¥200,000)
- ・真如苑助成金 (¥300,000)
- ・中宮中学校「Learning by Giving プロジェクト」 (¥100,000)
- ・姫路白鷺ライオンズクラブ (¥200,000)
- ・ウェルネス苑都城 (¥100,000)
- ・その他、講演デモンストレーション派遣料 (¥582,450)

Yahoo! ネット募金 (9月～8月)

今年、649,652 円の寄付額となりました。現在、毎月の継続寄付人数は 33 名です。また、「令和 5 年 7 月九州北部・中国地方豪雨災害」の支援金は 1,151,082 円の支援金となり、出動費用はこちらから計上しました。

Syncable (クラウドファンディング) (9月～8月)

- 「災害救助犬訓練犬「たの」のバースデーネーション」 (¥60,641)
- 「災害救助犬「太陽」のバースデーネーション」 (¥557,561)
- 「災害救助犬訓練犬「さくら」のバースデーネーション」 (¥301,945)
- 「災害救助犬訓練犬「ゆいと」のバースデーネーション」 (¥216,493)
- 「災害救助犬「陸」のバースデーネーション」 (¥385,395)
- 「さらに災害現場で活躍するために救助犬たちの訓練環境を整えたい！」 (¥548,958)

プログラム

- ・救助犬育成体験プログラム (10月8日～9日) (¥140,000)

犬の預かり

ジャーマンシェパード (メス) の預かりを有償で行いました。

5月31日～6月30日 (預かり費用: 71,500円)

9月2日～9月30日 (預かり費用: 27,500円)

8月3日～9月2日 (預かり費用: 27,500円)

・その他

- ・災害救助犬事業人材確保

今年度、3名を新規雇用致しました。

【セラピードッグ事業】

令和4年度も継続してセラピードッグの育成・派遣を実施しました。

・被災地慰問

熊本地震被災地慰問（令和5年4月23日／南阿蘇 黒川ウオーク）

4年ぶり3回目の開催となる震災復興イベント「2023 南阿蘇・黒川ウオーク」に、セラピードッグの「みらい」「ハッピー」「けんた」と参加しました。熊本地震で被災した東海大学阿蘇キャンパスがあり、「学生村」と呼ばれ若者たちの活気であふれていた南阿蘇村の黒川地区。被害状況や震災から7年の現状と復興へのあゆみを、住民や学生の方々との交流を通して知ることができました。

ウォーキングのスタート地点となったのは、旧長陽西部小学校を利用した施設「震災伝承館 轍(わだち)」。この施設では、震災記録ビデオの上映や写真展示にふれることで、黒川地区に住んでいた東海大学の学生と地域住民の方々の、震災前の交流から現在までの繋がりを知ることができます。（現在、一般開放は行われておりません）ウォーキングの後は、同施設でセラピードッグとのふれあいや、災害時に大切なペットを守るための「ペット防災」についてお話させていただきました。

東日本大震災被災地慰問（令和5年6月16・17日）※大東建託グループ「みらい基金」にて実施

■中妻公民館・青葉ビル

発災から12年が経った今、復興住宅では高齢化や独居による認知症の発症が問題になっています。「釜石支援センター望」では、「復興住宅の皆さんとの12年の信頼関係は代えがたいものがある」と、サロン活動などを通して「コミュニティづくり」に取り組みられています。心に寄り添い身近な存在であり続けるためには、皆さんが集うサロン活動が重要であること、そしてセラピードッグとの交流を毎年楽しみにされていることをお聞きし、被災地での長期的な活動の重要性を感じました。

■ペット防災イベント（釜石市民ホール TETTO）

釜石市の地域の住民さんを対象に、日頃の備えの重要性、また、適切な避難行動のための情報収集として、ハザードマップの見方や雨量の目安をわかりやすくお伝えし、安全を守るための呼びかけを行いました。特にペットを飼っている世帯は避難に時間がかかるため、早めの避難が重要であることをお伝えしました。

・福岡県ワンヘルスの取り組み

【収入】¥474,790

今年度（4月）からは視覚・聴覚障がいの子どもの対象にドッグセラピーを実施、昨年度から引き続き、療育・医療の専門家の方々と共に、「実施前の準備」「プログラムの実施」「事後の検証」に取り組んでいます。年齢や障がいの特性、環境や性別、それぞれの特性にマッチしたプログラムがあります。安心安全なドッグセラピーを実施するためには、受け入れ側とセラピードッグの派遣側の事前準備など、双方の連携が重要であること、特に事前準備については時間をかけ、丁寧に取り組んでいます。

■しいのみ学園（令和5年6月30日・7月27日・8月24日）

令和4年度の受け入れ施設である福岡県の支援学校「しいのみ学園」よりセラピードッグ派遣にご依頼頂き、全3回の実施が終了しました。学園が県の事業ではなく園の予算でドッグセラピーの継続を望まれたことは、ワンヘルスの取り組みにおける実施後の波及効果があったと言えます。

【収入】150,000円（全3回）

■「福岡県 One Health 国際フォーラム 2022+FAVA」（令和5年11月13日）

アジアで最も大規模な獣医学の国際会議「アジア獣医師会連合（FAVA）大会」と同時開催され、新型コロナウイルス感染症をはじめとする人獣共通感染症などに対し、各分野の世界トップクラスの研究者がワン

ヘルスアプローチにより解決することを目指し研究成果などを世界に向けて発信される中、セラピードッグのハッピーと共に登壇し、福岡県障がい福祉課と療育・医療の専門家の方々とチームとなってスタートしたドッグセラピーの取り組みについて発表しました。

・セラピードッグ派遣事業とその他プログラム

オンラインドッグセラピーの継続と、3月から病院訪問が再開しました。

① 大阪母子医療センター

【 オンラインドッグセラピー 】 14回/83名

【 病院訪問 】 15回/120名

【 収入 】 ¥300,000

② 国立国際医療研究センター病院

【 オンラインドッグセラピー 】 1回/7名

セラピー訪問

【 訪問件数 】 80件

【 収入 】 ¥2,067,340

セラピードッグハウス

【 収入 】 ¥108,300

セラピードッグサポーター養成講座

【 収入 】 ¥105,000

・活動資金

助成金

【積水ハウスマッチングプログラム】 80万円

・助成期間/令和6年1月末まで

・大阪母子医療センターと国際医療研究センター病院で長期入院中の子どもたちへの支援活動

・セラピードッグの医療費（みらい・ハッピー・けんた以外の5頭分）

【大東建託グループ「みらい基金」】 100万円

・助成期間/令和5年12月末まで

・大阪母子医療センターで長期入院中の子どもたちへの支援活動

・東日本大震災被災地慰問

・セラピードッグ3頭（みらい・ハッピー・けんた）の医療費含む育成費

Yahoo! ネット募金

今年度寄付額：269,844円（累計寄付額：2,420,850円）

・その他

令和5年度から梅花女子大学にて、30コマ（ドッグトレーニング15コマ・アニマルセラピー実演15コマ）の授業を非常勤講師として受け持っています。

【動物福祉事業】

令和4年度も主に動物福祉の向上に関する活動を実施しました。

・犬の保護、引き取り及び管理に関する事業

昨年度から犬1頭の飼養管理を継続。

令和5年8月31日現在、犬1頭を管理し里親募集を行っています。

・保護した犬猫及び行政機関収容犬猫の譲渡に関する事業

犬1頭を一般家庭に譲渡しました。

・犬や猫の愛護・保護活動を目的とした他団体との交流・連携に関する事業

行政収容所（動物愛護管理センター、保健所、警察署など）の収容動物の一般家庭への譲渡率を向上させるため、他の団体や動物愛護活動家と協働し犬12頭と猫13頭に医療費等を支援、犬10頭と猫5頭が一般譲渡に至りました。今年度は1,712,644円を使用して支援しました。

医療費支援の財源は平成28年12月から参画したYahoo!ネット募金「行政に収容された犬や猫に必要な医療を受けさせ里親を見つけない」から充当しました。

・災害への対応

【石川県能登地方地震（令和5年奥能登地震）】

令和5年5月5日午後2時、石川県で震度6強の地震が発生しました。珠洲市内の避難所に100名以上が避難しているなどの情報を受け、5月6日に石川県珠洲市に向けて出動しました。珠洲市役所総務課危機管理室・福祉課へ連絡後、珠洲市内の避難所を訪問し、ペット連れ避難に関する調査を実施しました。避難所対応の職員への聞き取りから、珠洲市ではペット連れの避難に関する取り決めがないこと、調査時点ではペット連れの避難者がいないことが確認されました。

【伊丹市天神川堤防決壊による災害】

令和5年5月8日未明、伊丹市北西部を流れる天神川の堤防が決壊し、周辺地域に浸水被害が発生しました。被害状況は床上浸水が2件、床下浸水が10件となりました。現地で支援活動中の被災地NGO協働センターから、床上浸水の被害があったお宅でペットを飼っているという情報を受け、現地で協働しました。当該の住宅では、浸水によってペット用品が汚損してしまったとのことで、支援物資を提供しました。

なお、今災害は、兵庫県が管理する堤防工事において対策が不十分だったことが認められたため、県による被災者への補償が決定しています。

【令和5年7月豪雨災害】

令和5年7月8日ごろから断続的に降り続いた大雨により、福岡県・大分県・佐賀県の各地で土砂崩れや浸水の被害が発生しました。7月10日に佐賀県、福岡県に向けて出動しました。

佐賀県唐津市では、唐津市役所災害対策本部にて報告後、唐津市内の避難所へ訪問し、ペット連れ避難者に関する調査を実施しました。福岡県久留米市においては、災害対策本部で避難所訪問の必要なしとの判断があり、発災直後の避難所訪問は実施に至りませんでした。

各地で災害ボランティアセンターが開設され、現地での支援活動を開始しました。団体間の連携体制を図り、唐津市では佐賀災害支援プラットフォーム、久留米市では災害NGO結と主に協働し、ペットに関する情報の共有を図りました。被災者・支援者を問わず、ペット支援に関する認知が低く、要望が顕在化しにくいことが大きな課題となる中、実際に被災地域で活動している団体と協働できたことにより、支援先

にペットがいることがわかれば日本レスキュー協会に繋ぐ、という流れを確立することができました。これにより、物資支援やしつけ相談など、多くの個別支援を実施することができました。

また今災害では、ペットに関する支援活動のための連携体制をあらたに構築しました。一つは福岡県獣医師会との連携で、獣医師会が実施する、動物病院での無料一時預かり支援の情報拡散を行いました。もう一つはペット災害危機管理士会との連携で、定期的に情報共有会議を行い、ペット用支援物資の集積やトリングカー派遣によるペットのシャンプー・カット支援が実現しました。

今後、発災時のペット支援がスムーズに届けられるように、地域の災害支援団体等と意見交換を継続しています。このような連携を経て、地元主体のペット支援活動やペットの防災が広まっていくよう、取り組みを継続していきたいと考えています。

・ペット防災に関する活動

ペット防災講座の開催

令和5年4月より、一般飼い主を対象とした、ペット防災を学べる講座を開始しました。一般飼い主向けとしていますが、受講者は行政関係者、ボランティア経験者、プロのドッグトレーナー、防災専門機関関係者など、各方面の方に興味を持っていただいていることを実感しています。講座の内容は、実践や実装に即した内容となっており、受講者自身が取り組むべきことが明確になるような構成にしています。今後、ステップアップ形式の内容も検討しており、事業収入や飼い主への啓発に加えて、新たなつながりを得られることも期待しています。

ペットとの避難に関する啓発活動

各種ペット関連のイベントにおいて、ペットの飼い主に向けて「災害に対する備え」の重要性を知ってもらうための啓発活動を行いました。これまでの災害で、被災地で行なってきた被災ペットへの支援活動を元に情報発信をしています。

災害時には人命が最優先とされるため、家族であるペットの命を守るのは飼い主であるということ、そのためには日ごろからの備えがとても重要であることを飼い主に知ってもらい、「災害現場や避難所での事例」「備えておくべき非常用持出品」「日ごろから取り組むべきしつけ」などについて発信を行っています。

6月17日には、昨年に引き続き、セラピードッグ事業の慰問活動に合わせ、被災地でのペット防災の呼びかけを岩手県釜石市で行いました。地元団体の主催で行われた、ペット防災について考えるイベントに参加し、ペットとの避難や普段からの備えについて、被災地で実際に起きた事例なども交えながらお話をしました。釜石市は津波の被害を受けましたが、大雨による浸水や土砂災害の危険も高い地域です。ハザードマップの見方や、雨の警戒情報の取得方法などについてもお話ししました。梅雨時期であったことも重なり、来場された方は熱心に耳を傾けていました。イベントでは、協会オリジナルのペット用非常持出袋や避難時に役立つしつけの資料を配布し、「備えの実装」を促すような呼びかけも行いました。

今後も地域を問わず、ペットとの避難に関する啓発活動を広げ、継続していきたいと考えております。

・犬のしつけ方教室

本部開催のしつけ方教室を災害救助犬事業から引継ぎ、継続しています。延べ12件対応、53,000円を売り上げました。

スーパービバホーム大阪ドームシティ店「愛犬しつけ方教室」11回開催、27件、70,400円を売り上げました。

・保護犬から災害救助犬、セラピードッグへの育成に関する事業

今年度は該当する保護犬がなく、実施していません。

・活動資金

助成金

赤い羽根ボラサポ 令和5年7月豪雨 760,000円

(8月時点内定。助成金振り込みは令和5年度)

企業支援

・大和ハウスグループ「2022年度エンドレス募金」 寄付金額：総額1,016,400円

・株式会社アイビーアール 寄付金額：100,000円

Yahoo!ネット募金

新規プロジェクトを令和4年6月より開始。令和4年度の寄付額合計は550,430円

【佐賀県支部】

大町拠点「MORE WAN」がオープンし、平時には防災に関する講座やイベント、災害時にはペット同行避難所としての運営を開始した。今後、未完了部分のフェンス工事や訓練施設、ドッグランエリア等の整備、利用客の受け入れを行っていく。

○活動資金調達について

活動資金源として、ふるさと納税による資金調達を継続

ふるさと納税寄付額 35,858,500 円（令和4年9月～令和5年8月末）

2022年11月15日～2022年12月31日（90日間）ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」にて設定金額500万円のGCF（ガバメントクラウドファンディング）開始。タイトルは「災害に強い地域を増やし、動物も人も安心して暮らせる社会を目指したい！」2,266,000円集まり、目標金額の45.3%にて終了。

・6月1日 佐賀県支部職員として織口 真己子を採用。ふるさと納税等の事務全般に従事。

・地域おこし協力隊

6月5日 佐賀県支部職員として平田 朱里を採用

7月1日 平田、大町町地域おこし協力隊として活動開始

地域おこし協力隊予算：3,849,500円

○災害救助犬事業

佐賀広域消防局、DMAT、日本レスキュー協会の3機関での合同訓練参加

1月19日佐賀広域消防局、DMAT、日本レスキュー協会の3機関合同訓練に参加。

佐賀県では救助犬との連携訓練は初めての試みとなり、午前中に座学講習を通し救助犬の利点や欠点、運用について話をした。午後は、想定訓練を通して実際に活動を行った。訓練では、搜索訓練だけではなく、高所へ犬を輸送する訓練も実施。平時より佐賀県内で救助犬の育成をされている個人ハンドラーの方々と一緒に5名3頭チームを編成。積極的な検証が繰り返され学びの多い充実した2日間であった。

佐賀県警白石警察署・機動隊合同訓練

4月15日佐賀県支部 MOREWANにて白石警察署との合同訓練を実施。大雨や地震によって土砂災害が起きたという想定で、警察が救助犬とともに倒壊した家屋に取り残された人を助け出す訓練が行われた。白石警察署、機動隊、日本レスキュー協会メンバーなどおよそ30人が参加。

日本財団・SPF(佐賀災害支援プラットフォーム)主催「大町町どまんなか大作戦」

6月11日日本財団・SPF主催のイベントに救助犬2頭 隊員1名が参加。イベントでは遠隔操作や実際に参加者の方に隠れてもらい、救助犬が搜索するデモンストレーションを行った。

佐賀県唐津市土砂災害

7月10日佐賀県唐津市土砂災害に救助犬2頭 隊員3名出動。16:30被災地に到着。現場は土砂の堆積が深く、家屋の搜索も難航。

7月11日早朝の共有会議にて、消防及び消防団が川沿いを右岸と左岸に分かれて搜索。気になる場所で救助犬を投入する方針が示される。8:10川沿いを搜索していた消防団より行方不明者のスマートフォンが発見。現地確認及び搜索を実施。その後、消防より家屋付近での搜索要請が2度あり対応。

7月12日06:00救助犬搜索開始、航空自衛隊の救助犬とともに活動。現場は土砂のぬかるみが酷く活

動は難航。1名は、その後の捜索で北九州沖の海上で発見された。

○セラピードッグ事業

どんぐりキッズ市場

10月10日佐賀市唐人町緑道広場で行われた「どんぐりキッズ市場」にセラピードッグ3頭が参加。去年も参加していたこともあり、会場に来てくださった方々から温かいお言葉をいただいた。

○動物福祉事業関連

令和5年7月豪雨により佐賀県唐津市、福岡県久留米市、大分県日田市に甚大な被害が出た。福岡、佐賀の各県では被災件数は百数十件にのぼるとされていた。発災後より日本レスキュー協会が事務所機能を担っていた佐賀災害支援プラットフォーム（以降SPF）を始めとした県内団体と連携して被災地に入り、情報収集・共有を行う。避難所、地域コミュニティーセンターへチラシや支援物資の設置、各家に訪問（支援物資の提供）を行っている際に飼い主の体調がすぐれないが犬がいるため通院が難しいという方へ福岡県獣医師会で実施されているペットの無料一時預かりの支援を紹介。

被災者の方の不安を増長させることが無い様に被災地での復旧活動に関して地域を回りペットに関する課題等の情報を集めてペット用フード・グッズの物資支援提供などの個別対応にあたった。

○大町町地域おこし協力隊

佐賀県立白石高校 MOREWAN 見学

2023年6月15日、佐賀県支部大町拠点『MORE WAN』に佐賀県立白石高等学校 商業科キャンパスの生徒3名と教諭2名が見学と取材に来られた。

日本レスキュー協会の活動紹介や施設案内、太陽・結道によるデモンストレーションを行った。

大町町に拠点を構える私たちにとって、地元の方々に興味関心を持っていただき、とても嬉しく感じた。平時から避難訓練なども行い、様々な活動でまた生徒さんと協働できればと考える。

嬉野温泉新幹線竣工・開業イベント

2022年9月23日嬉野温泉駅前広場で西九州新幹線竣工・開業イベントが開催。大町町ブースと一緒に日本レスキュー協会の紹介・グッズ販売を行った。

MOREWAN 避難所宿泊体験会

2022年10月29日、30日 MOREWAN で2日間にわたる避難所宿泊体験会を実施。参加者2世帯(2名2頭)。

イベントでは実際の避難所開設時と同様、マニュアルの受付手順に沿った入所受付と避難所スペースへの案内を行い、団体概要と訓練概要を説明。参加者には屋内テントと段ボールベッドの組み立てを参加者同士協力し合いながら組み立ててもらった。また、避難所ではペットをケージで待機させる必要があるため、しつけの相談や避難所に関する話し合いが行われた。昼食には非常食の提供。翌日は参加者からの一晩過ごした感想や避難所でよかった点、困った点、要望などの意見の聞き取りを行った。最後に参加者とスタッフで協力しながら使用した段ボールベッドやテントを片付け体験会を終了。

大町町セラピードッグ慰問活動

2022年11月14日佐賀県杵島郡大町町では大町町地域おこし協力隊と佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）が協力し、「おおまち茶話会」を開催致しました。

お茶コーナーで地元のボランティアさん手作りのお菓子をいただきながら、ファイナンシャルプランナー

さんによるお困りごと相談会、佐賀女子短大の学生ボランティアさんにもお手伝いいただき、住民さんへのヒアリング、交流を行った。日本レスキュー協会からは、セラピードッグのみらいが参加し、住民さんや支援団体の皆さんとのふれあいを行った。このようなサロン活動は住民さんへの細やかな支援に繋げる為、今後も開催する予定である。

大町町絆サンマ祭り

2022年11月20日大町町民健康広場「オリオンプラザ」で開催された『第3回絆サンマ祭り』に参加。『被災地から被災地へ「恩返し」』をテーマに、地元の学生やボランティアの方々、飲食店などの地域住民の皆さんや豪雨災害で支援活動をしていた団体の方々と一緒に、ブース出店やステージイベントを行った。日本レスキュー協会は、災害救助犬のデモンストレーション、ブース出店ではペット用防災グッズの展示、販売。

復旧・復興の象徴イベントとして開催され、会場ではシンガーソングライターのさだまさしさんが設立した「風に立つライオン基金」から気仙沼産の1,000尾のサンマが支援の輪として無料提供された。

令和3年8月豪雨災害で支援活動を行っていた全国の支援団体の皆様やボランティアの方々、地元の飲食店さんによるブースが並び、また大町聖太鼓や弾き語りステージイベント等が開かれた。

大町町サロン

2023年6月22日から大町町各地域(4か所)で行われているサロンに参加。令和元年、3年災害にあった大町で日本レスキュー協会がかかわったことで住民の方は知っている方もいらっした。しかし、知らないと言われる方が大半であった。何度かサロンに参加をしていく中で、実際にMOREWANの施設を見てみたいという方が増えた。少しずつではあるが、イベントをMOREWANで開催しながら知名度を上げていこうと考えている。

○大町拠点「MORE WAN」に関して

令和4年4月に稼働開始した大町拠点「MORE WAN」は、ふるさと納税の寄附金、休眠預金等を活用して外構工事を進め、日本レスキュー協会の瓦礫訓練施設の整備だけではなく、佐賀県西部の災害支援拠点として九州ブロック社会福祉協議会の支援資機材の保管場所に活用されるためのコンテナの設置、有事の際に迅速に動くための仕組みづくり等を行った。

【ペット同行避難所開設・閉鎖】

- ① 令和4年9月5日 17:00～9月6日 10:40
- ② 令和4年9月18日 9:00～9月19日 15:50
- ③ 令和5年6月30日 11:15～7月1日 14:00
- ④ 令和5年7月3日 9:40～7月3日 14:10
- ⑤ 令和5年7月8日 18:00～7月10日 18:00
- ⑥ 令和5年8月9日 13:00～8月10日 9:30

【避難訓練・イベント開催等】

- ・令和4年10月29日 令和4年度佐賀県原子力防災訓練参加
佐賀県玄海町の玄海原子力発電所の事故を想定して県下で行われる訓練であり、MORE WANはペットと一緒に避難された方の受け入れ施設として参加。合計5世帯(犬3頭/猫2頭)の受付訓練を手順に沿って実施。

- ・ 令和4年10月29日～30日「避難所宿泊体験会」 合計3組（犬2頭）の参加
令和4年11月30日 講演会「平時を楽しみ有事に備える」
講師：(一社) 日本笑顔プロジェクト（長野県）代表理事 林 映寿 氏
- ・ 令和4年12月1日、2日講演会・重機講習会 佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）との共催で実施。
講師：日本笑顔プロジェクト
- ・ 令和4年12月11日「ペットと一緒に防災について考えよう！」計11組（前半9名犬2匹猫1匹、後半7名犬3匹猫1匹）
- ・ 令和5年2月4日～5日「避難所運営訓練・宿泊体験会」
- ・ 令和5年5月27日 10：00～12：00 日本財団災害対策拠点プロジェクト・佐賀災害支援研修センター 研修 『「ペットとの避難」実現のための取り組みを考える会』

【イベント出展】

- ・ 令和4年10月22日～23日
「MORE WAN GARDEN」災害救助犬デモンストレーション、ミニ運動会、セラピードッグとのふれあい、物販ブースなど
- ・ 令和5年3月11日～12日
「MORE WAN GARDEN」災害救助犬デモンストレーション、飛越競争、10メートル走、待て大会、物販ブースなど

以上